

JWFファンド2021 完了プロジェクト 概要

1. Kanjuki村の既存井戸修繕(ウガンダ)

- 実施団体: Rural Initiative for Development and Empowerment (RIDEUGANDA) (#044)
- 実施地: ウガンダ Kayunga 県 Kanjuki村
- 費用: 2,231ドル (JWFファンド1,500ドル、団体500ドル、受益者231ドル)
- 受益者数: 1,500人 (男性150人、女性300人、子ども1,050人)
- 実施地の水問題:

対象のKanjuki村があるKayunga 県の恵まれない農村部の人びとはCOVID-19のパンデミックを、安全な水と衛生へのアクセスが確保されていない状況で切り抜けなければならなかった。ここでは水が、井戸の故障や機能不全、人口増加によって慢性的に不足して、深刻化していた。手押しポンプの腐食問題は何年も前から知られていたが、手をつけられず修理代の高騰や故障をもたらしていた。Kayunga県の手押しポンプのうち三分の一に何らかの修理が必要とされていた。地元の水源が故障すると、目先の安全でない水源か遠く離れた所まで歩いて安全な水を探しに行くことを迫られた。後者により子どもたちは学校を欠席したり、水汲みの道中での誘拐が起こったりした。女性や少女も長時間に及ぶ徒歩による安全な水探しを強いられ、社会活動から外れていった。



実施前:
壊れた手押しポンプ井戸



実施後:
手押しポンプ井戸の修繕完成

- 主な活動内容:
プロジェクト参加促進活動、手押しポンプ付き井戸3基と周辺設備の修繕、水質検査、職人への修理研修等
- 特長(持続性):
手押しポンプ補修要員へのトレーニング、維持管理委員会の設立と委員へのトレーニング、地方行政の技術面の協力
- 実施団体の説明:
子どもへの教育の他、村落衛生等の活動に取り組む。2016年設立。今プロジェクト実施までに22基の手押しポンプ修繕経験あり。

JWFファンド2021 フォローアップ結果

I. Kanjuki村の既存井戸修繕(ウガンダ)

【現状】

<修繕した3つの井戸>

計画通りにたいへんよく稼働していて、破損、水量の減少や水質の低下は認められなかった。

<維持管理>

維持管理委員会の指導により、受益者は施設を正しく使用していた。修繕プロジェクト後、大きなトラブルはない。

3つの井戸にそれぞれの地域から選出された委員による維持管理委員会があって、村落行政指導者と定期的な会合、利用者の登録更新、集金や規則づくりをして施設の維持管理を行っていた。地域住民が主体的に維持管理費を払えるように、民主的な活動をしていた。新しい規則を作る際は、執行前に村落議会の承認が必要だった。規則は地域住民に尊重され、毎月維持管理のために維持管理委員会を開催するごとに確認されていた。集金された費用は交換部品購入やポンプ修理に使われていた。

このプロジェクトでは3井戸地域で2人ずつポンプ修理要員の研修を行った。維持管理委員会にも様々な技能研修を行ったが、適切に機能していた。



修繕した井戸とA地域の村落住民



ある維持管理委員会の会合

【変化】

このプロジェクトにより、3つの受益共同体には次の変化が得られた。

- 聞き取り調査した家庭の95%で手洗いを実行していた。
- 調査した地域住民の少なくとも90%は衛生習慣改善のアクセスを得た。
- プロジェクト地域での屋外排便は、完全に消滅した。
- 学校における屋外排便も100%なくなった。
- 少なくとも6つの受益者がいる共同体内の小学校において、保健衛生教育が健康を保つ重要な要素として取り入れた。
- 調査家庭や学校では、水系感染症が95%減った。地域の保健センターでも、水系感染症の大幅な減少がみられた。



実施団体による維持管理委員研修ワークショップ

【その他】

実施団体の対象地域において、壊れたり動かなくなったりした地域共同体管理下の手押しポンプ修繕の要望があるとわかっているが、資金不足によりこのプロジェクトと同じような修繕活動をできていない。

実施団体には水保健衛生分野の人材や技能はあっても、材料や部品を購入する資金がない。

実施団体によると、もしJWFF2024が行われるならば自分たちのような貧しい地域における水問題の解決活動を行う団体にとって世界にみてもらうユニークで先進的な試みになるだろうとのことだった。

JWFファンド2021フォローアップ結果

I. Kanjuki村の既存井戸修繕(ウガンダ)

現場からの声(抜粋)



Mukasa Davidさん (52歳、村落指導者)

我々の給水システムを修繕した日本の人々と実施団体への感謝を忘れられません。安全で清浄で十分な水供給がなくなった数年は私たちにとって最大の危機でした。このプロジェクトのおかげで、水へのアクセスができて手洗いや食器洗いといった、保健衛生では素晴らしく前向きな変化がありました。もう汚い水による下痢、コレラ、皮膚病や栄養失調の被害がなくなりました。

プロジェクト後はKanjuki村で罹患率や死亡率を高めた要因だった、下痢の症状が発生しなくなりました。

このプロジェクトによって、私たちの地域では次の結果を得られました。

- ・対象地域での水系感染症削減
- ・村落の人たちは安全な水へのアクセスを回復した。
- ・村落の人たちは保健衛生習慣改善へのアクセスを得た。
- ・村落で恵まれ買った女子や女性でも自由時間が増えて、経済貢献や主体性が育ち、生産的な資産の配分ができるようになって成長を促し、不平等の改善、そして子供たちの栄養、健康と学校出席率における改善がもたらされました。



Aguti Agnesさん (42歳、施設管理員会長)

維持管理委員会のメンバーは、1年間の任期を地域住民の奉仕義務として熱心に取り組んでいます。現状はうまくいっています。しかし任期を1年から複数年にすることや、行政的な役割が過大となった場合は実施団体による水利用委員会への研修・一部または委員全員を交代するように、規則を変更するかもしれません。

このプロジェクトによって、補修に必要な基金の徴収と活用を強化できました。うまくいっている他の手押しポンプ共同体を参考にしながら、維持管理委員会のメンバーには施設の正しい運用と維持管理をする力になっていただきました。



Kankindi Janeさん (30歳、受益者)

- ・ この施設は毎日使っています。私たちの給水施設が修繕してもらえたので、本当に嬉しく感謝に満ちています。施設が壊れていたころは、家事に使う水を求めて私と子どもたちは毎日2~3キロ歩いていました。
 - ・ 今回のプロジェクトでWASH研修を受けて、次のことを実施しています。
 - 持続的に水を使うようになりました。
 - 家庭と地域での屋外排便を根絶しました。
 - 水利用委員会では、ポンプ周辺の草刈りをしています。
- なお、ポンプ維持管理の集金には欠かさず支払うようにしています。
- ・ このプロジェクトで、主に次の前向きになれることができました。
 - もう私も家族も、家から石を投げれば届く距離に安全で清浄な水があるので、長い距離を歩かなくてよくなりました。
 - 私の子どもは家で水汲みをする時は学校の授業に出なかったのですが、きちんと通学するようになり成績が上がりました。